

「超音波診断へのアプローチ 腹部」

東 義 孝・松 本 廣 嗣 著

東京女子医科大学助教授

秋 本 伸

本書の著者、東義孝氏は昭和 47 年に九州大学医学部を卒業、九大放射線科を経て福岡大放射線科講師。松本廣嗣氏は昭和 50 年に熊本大学医学部を卒業し、現在沖縄県立中部病院外科医長であり、共に長年超音波診療に携ってこられた。本書はその豊富な臨床経験をもとに、トレーニングの意味からは極めて適切な症例を用いて作られたものと言えよう。

著者は既に超音波診断に関する著書を世に出している。本書「序」にしみじみ語られているごとく、超音波診断のトレーニングは検査の現場で行われるのが最も効率よく、テキストによる指導には問題が少なくない。著者はこの点を十分知り尽したうえで、あえて初学者向けにこの本を工夫して作られたものである点が注目に値しよう。多くの類書が疾患別に分類して作られているのに対して、ここでは Q & A 形式をとりながら、どこにポイントをおいて読影するのかを教えているのもその点

に配慮したものであろう。

各臓器ごとに区切ってみると、読影にあるいは疾患の理解にやさしい症例から難しい症例へと配置してあるのも同様の心遣いであろうか。また、超音波画像に馴染みの少ない人にとってありがたいと思われるのはシェーマのわかりやすい点であろう。明瞭な線画で描かれており、原画である超音波像に非常に忠実である。シェーマとしては若干省略部分があってもよいという見方もあるであろうが、画像を見慣れていない人にとっては本書のようなシェーマがおそらく最適であろう。更にもう一点、各写真を描出している断面を示すボディマークに相当する胴体図が大変わかりやすい。小さな図で探触子の位置や傾きを微妙に表現することはなかなか難しいが、ここでは非常に理解しやすくできている。

Q & A 形式について、いわゆる問題集としてではなく、どこに注目して読影してゆくのかを自ずと示す navigator としての役割を与えてい

ることも著者の新しいアイデアであろう。

超音波診断を診療と結びつけるうえで不可欠な、疾患についての解説は Q & A のあとのノートの項で述べられている。ここでもいわゆる初学者を対象としているところから、1 疾患について説明文は原則的に半～1 頁にとどめ、それ以上の詳述は避けているのがわかる。簡明で、あいまいな迷うような記述を極力排すのが、このような対象者にとって必要であることを著者はよく知っていると同時に、記述に十分な自信の裏付けがあることが想像できる。引用文献の類は本書にはない。いたずらに 1 か所で深入りせずに全体を読み通しやすいうにという主張がここにも感じられる。同様の姿勢からであろうか、いわゆる超音波解剖に関する記述がやや不足しているように感じられる。初学者にとってはこのあたりの知識が必要であるように思われるが、ここは優れた超音波解剖関係書に任せるか、それこそ検査現場で動画像を通してダイナミックに理解することを期待して省略されたものであろう。

いずれにせよ、研修医など若手臨床家が超音波の読影を学び、読みを深めることを志すとき、本書が恰好の良書であることは間違いない。

B5 判 292 頁 図 92 写真 247
1989 定価 4,944 円(税込) 〒 300